

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成23年度第2回会議
開催日時	平成23年8月26日（金曜日）午前10時から正午
開催場所	保谷庁舎3階 第2会議室
出席者	委員：石井委員、鈴木委員、多々良委員、近辻委員、都築委員、保坂委員 山下委員 （欠席：並木委員） 事務局：磯崎課長、神田係長、亀田文化財保護専門員
議題	1 正副会長選任 2 会議の運営について 3 報告事項 埋蔵文化財の調査（5月～8月）について 市内建造物悉皆調査について 文化財ウィーク2011への参加事業について その他の事業について 4 その他 西東京市の文化財について 次回会議日程について
会議資料の名称	資料1 文化財保護審議会委員名簿 資料2 西東京市文化財保護条例 資料3 西東京市文化財保護条例施行規則 資料4 西東京市文化財保護審議会条例 資料5 西東京文化財指定基準・文化財指定の手順 資料6 西東京市文化財保護審議会傍聴要領 資料7 附属機関等の会議録作成に関する要綱 資料8 埋蔵文化財調査一覧（平成23年5月27日～8月26日） 資料9-a 平成23年度市内建造物調査実施計画 資料9-b 調査対象物・エリア地図 資料9-c 実測図 資料10 文化ウィーク2011参加事業一覧 資料11 その他の文化財事業一覧 ・冊子「ジオラマで見る西東京市の歴史」 ・チラシ「トレジャーハンター4」 ・チラシ「縄文笛作り講座」 資料12 西東京の文化財について その他資料 西東京市郷土資料室パンフレット 西東京市下野谷遺跡パンフレット

	西東京市文化財マップ 保谷八景（近辻委員からの情報提供資料） 日の出町歴史文化基本構想目次（近辻委員からの情報提供資料）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・委嘱状の交付 （議事進行：会長選任まで事務局）</p> <p>・委員自己紹介</p> <p>・事務局自己紹介</p> <p>○社会教育課長（挨拶）： 改めて、ご多忙の中西東京市文化財保護審議会に出席ありがとうございます。長年にわたり、西東京市の文化財保護を支えていただき、少しずつ進んできたが、一方では、なかなか進まない部分も多い。</p> <p>例えば、下野谷遺跡も指定に向け、行政内で協議調整をしていたが、文化財は条例としては整っているが、市の計画に位置付けられていないとの指摘があった。同時に、下野谷だけでなく、市の文化財全体の活用によって、街の活性化、街づくりにつながるようなものにしてほしいとの意見を受けた。今後、社会教育課としてはそういった方向で、努力していきたい。具体的には、26年度に策定する、市の総合計画および教育計画の中に位置付けるために、来年度末までに一定の文化財の保存・活用に関する計画の方向性をまとめていきたい。それによって、予算を含めた形で、行政内の了解を得ていけると考えている。そのため、今後も引き続き委員の皆様にご協力を頂きたい。</p> <p>・配布資料の確認・訂正</p> <p>議題1 正副会長選任</p> <p>○事務局： 配布資料4の第6条に基づき、会長および副会長について委員の互選により選出していただきたい。</p> <p>（決定）推薦により3名の候補が上がり、多数決により鈴木委員が会長に就任。副会長には石井委員が就任。</p> <p>（休憩）</p> <p>議題2 会議の運営について</p> <p>○事務局： 会議の運営上の確認事項について、資料6、資料7により説明。 西東京市の審議会はすべて傍聴でき、それぞれの審議会で要領を作成するよう定められている。これまでの実績から傍聴人数は5人とする。</p>	

会議録は発言者の発言ごとの要点記録とする。次回会議の通知文とともに案を送付し、次の会議で内容を訂正・確認したものを、決定稿とする。会議録はホームページで閲覧できることとする。

以上2点のとおり、確認のうえ了承をしていただきたい。

○全委員：
承認

・前回会議録の確認、訂正、決定。

議事3 報告事項

(1) 埋蔵文化財の調査（5月～8月）について

○事務局：

資料8のとおり下野谷遺跡範囲内の個人住宅の建て替え1件有。工法的に埋蔵物には影響はなかったが、事前の申請がなかったことが問題。今後注意していきたい。

○近辻委員：

資料の表内の時代の表記について質問する。

○都築委員：

東京都に「周知の包蔵地」として登録した時代名称の表記方法に統一してある。

○近辻委員：

近代は調査対象か。

○都築委員：

埋蔵文化財行政としては、基本的には中世までが調査対象。江戸御府内は江戸時代も対象となる。西東京市域は、幕府のお鷹場ではあるが江戸の御府内外である。

○石井委員：

最近では、近代遺跡も調査している。近々では、調布市が調査した第二次世界大戦の掩体壕がよい例になる。

○鈴木会長：

周知の遺跡でなくても、家の解体などの良いタイミングで調査はできないのか。

○事務局：

可能な限り、ご協力をお願いして、遺跡を保護しつつ遺跡の内容の確認できるような調査をしたいと思っているが、なかなか事業主の協力が得られないのが現状。

(2) 市内建造物悉皆調査について

○事務局：

資料9-abcのとおり今年度から3ヵ年計画で、鈴木会長のご協力を得て、市内の建造

物調査を行う。登録文化財に向けての調査とも位置付けている。
今年度は悉皆調査に着手した。地図と表にて説明する。

- ・地図：赤のラインは旧村域。青、緑、黄色は今回調査した範囲。赤丸は詳細な調査を実施した建造物。
- ・表：調査一覧。

1. 向台公園の門

すでに解体。9cの実測図を残せた。

2. 野口屋

やや緊急性があり実施。青梅街道ではほとんど唯一といってもよいほどの古い建物。旧田無銀行の後、和菓子屋として使われた。震災で壁などが落下した。所有者が今後の保存や活用に関する意見を求めている。

3～7. 悉皆調査

下保谷全域と上保谷・上保谷新田の一部が終了した。市域を歩きながら、建造物を確認、きになる建物に関しては聞き取りを行い、その中でも重要なものに関しては、測量や詳細な聞き取りを行うといった方法で実施。確認41件。聞き取り26件。

6. 高橋孝邸

近郊農村である下保谷の農家の中で比較的多き豪華な建物であり、大正元年建築で保存状態も良好なため詳細調査を行った。

7. 高橋勉邸

典型的な下保谷の農家の形態をよく保存しているため9月に詳細調査を予定。

その他 高橋家穀倉

9cの実測図参照。実踏調査中に保谷駅前で発見。その場で測量をさせていただいた。所有者さんが大切にされている。

初年度ということで、準備不足であり鈴木会長にはご迷惑をかけた。実際歩いてみると、意外に目につく建造物があるものだという印象と、それがどんどんと無くなり、景観も変わっていくことを実感した。

また、養蚕小屋で保存状態の良いものが見つかったので、詳細調査に向けて調整をしていきたい。

○鈴木会長：

図面はまだ作成途中のもの。測量調査をしたものに関しては、解説をつけ資料化していきたい。

○近辻委員：

穀倉は市が指定しているものと同じ構造か。

○鈴木会長：

板倉づくりで、上部からスライドさせる構造で同じもの。

○近辻委員：

下保谷村の穀倉の可能性もある。

(3) 文化財ウィーク2011への参加事業について

○事務局：

・資料10について説明

毎年秋に都内全域で開催される東京都文化財ウィークに、4事業を参加エントリーした。詳細に関しては随時ご案内する。特に縄文の森の秋祭りに関しては、回を重ねて、協力団体も増えたので、ともに作っていく方向を明確にするために「お祭り会議」と題して、事前の打ち合わせを3回開催する予定。1回目は8月12日に開催。

○山下委員：

東伏見ふれあいプラザとは？

○事務局：

今年の5月にオープンした施設で、駅の北口線路沿いのマンションの1階にある。市の書類を取ったり、図書館の本を返したりできる市の出帳施設。地元の商栄会が運営をしている。一部フリースペースがあるので、秋祭りに合わせて展示を行う。これまで先生方からも市民の目に触れやすい場所での展示をとご意見があったので、そのチャンスとしたい。今後、巡回展示のようにできればよい。

○石井委員：

文審の委員も充実してきたので、先生方の多様な知識を事業などに活用していったらよい。

(4) その他の事業について

○事務局：

資料11について説明

・文化財普及事業としてウィーク参加以外にも郷土資料室を中心に行っている。

1. ジオラマ補修完成記念トーク
2. 市内の文化財をめぐる宝探しであるトレジャーハンター
3. 縄文笛づくり

7月から9月まで郷土資料室で3回の講座を行い、子供たちに縄文時代の笛をつくってもらおう。その笛で縄文の森の秋祭り当日、プロの演奏家とジョイントコンサートを行うという企画。

4. 夏休み自由研究応援ウィーク

郷土資料室の夏休み企画。自由研究の素材を用意して、7、8月末に2回開催予定。7月については、好評で終えている。

・文化財保護事業として、震災の影響を受けた文化財の支援を行っている大きなもの

としては、田無神社の補修に関し、都の補助金などに対応している。

- ・今年度から、民具の整理委託に着手。収蔵品のデータベース作成を行う。
- ・高校、大学の職場体験、インターシップなどへの対応を積極的に進めている。

武蔵野大学と田無高校の職場体験に協力、駒澤大学からは学芸員の資格習得を目指す学生が実習を現在、郷土資料室で行っている。

議事4 その他

(1) 西東京市の文化財について

○事務局：

今回から新しい任期が始まるということで、西東京市全般の文化財の概要について説明させていただきたい。先生方からもご意見をいただきながら情報交換の場としたい。

○文化財保護専門員：

- ・資料12について説明

資料12は、今年度から文化財保護の指針を作って頂くための、基礎的なものになればと思います。

西東京市の文化財は、国指定2件、国登録1件、都指定1件、市指定49件などがある。

周知の包蔵地は14ヶ所のみ。北に白子川、南に石神井川の2本の大きな河川が流れており、主にその流域に遺跡が存在する。石神井川では小平にある源流域に鈴木遺跡があり、西東京市、練馬を通り東京湾に抜ける。練馬以東は遺跡が連綿とあるが西東京市域には少ない。調査が行われていないことが大きな要因の一つなので、まだまだ調査によって遺跡数は増える可能性が高い。

現河川流域からはずれた市の中央、谷戸の地域は白子川の源流で、古い生活の痕跡がのこる。上保谷上宿遺跡がある。

マップの中で赤字は指定文化財、青字は指定されていない石造物類であるが、このようになかなか存在している。

資料12と9bの地図に村域を記入した。西東京市は、保谷市と田無市が10年前に合併したが、それ以前は、上保谷村、下保谷村、上保谷新田、下保谷新田、田無村の各村があり、更に、最近是他からの移入者も多いので、異なる歴史・文化を基盤としている人たちが集まった共同体といえる。外から見ると、あまりまとまりがないのはそういったせいで、西東京市の問題の一つでもある。つまり、西東京市への帰属意識が低い。田無市に帰属しているが、西東京市には帰属していない、あるいは、下保谷には帰属しているが、旧保谷市には帰属していないといった感覚がある。したがって、新しい故郷意識を高めることが大切な課題となる。そのためには、文化財はシンボル化し易くて有効だと考えている。

文化財を守るのと同時に、文化財を十分に活用していく事により、新しい西東京市の文化的な基盤、意識を作っていくことができれば非常に楽しいと考える。

例えば、下野谷遺跡の場合、故郷の意識を創生しようという気持ちに、プラスアルファ何かをつければ、故郷を誇りに思う気持ちになるのではないか。そのためには下野谷遺跡の特性である、非常に大きな縄文時代の集落といった列島の中でも注目できる稀少性。そういったものが、自分達が住んでいる地域にあるということで、西東京市のブランドとしていけるのではないか。

最初の話に戻すと、違う文化基盤をもついくつかの村が集まってできた市なので、これを今から1つのものにするには、なかなか難しい。そこで、逆に多様性がどれだけあるかを認識し、その多様性を生かし、地域ごとの特徴を生かせば良いのではないかと考えた。

そういった視点で、以下にコアとなる地域と関連する文化財をあげてみる。

・田無地域

青梅街道と田無宿がコア。文化財としては、田無神社、総持寺 観音寺、旧下田家名主役宅のほか、民俗芸能として田無囃子が田無神社をベースとして保存されている。「青梅街道・田無宿復活プロジェクト」のようなものを組めば、おもしろい。

・下保谷地域

屋敷林、近郊農村の雰囲気が残っている地域。

また、文化的には特異な地域で、日蓮宗を信仰する。練馬と文化的に近しい。三十番神や日蓮宗といった市の他地域とは異なる信仰を持つ。文化財としては、屋敷林の景観、現在の国立民族博物館の前身の跡地とその歴史、天神社、福泉寺、またすでに消滅したが南入経塚、民俗芸能としては保谷ばやしがある。

・下保谷新田域

ひばりが丘団など、都市開発の先陣を切った地域。東久留米にある自由学園の関連の建物もあり、都市開発の試みの歴史が残っている。

・上保谷・谷戸地域

もともと田無村はここから発生した。文化財としては、尉殿神社や四軒寺。東大農場で活動している市民も多いので活用すべき。谷戸の風景は文化的景観の一つ。

・上保谷・柳沢地域

石神井川と下野谷遺跡のほか、中島飛行機武蔵製作所などの戦跡関連の文化財も多い。東伏見稲荷神社もある。

・上保谷新田

上水にそった地域で、用水と新田開発の歴史がコア。国の史跡になっている玉川上水と小金井桜のほか、千川上水、阿波洲神社などがある。阿波洲神社は地元の方が祭りなども大切に守っている。絵馬も残っていて、民俗資料としてもおもしろい。

このように、西東京市には、実に多様な歴史、文化があり、非常にたくさんの宝物を持っている。プラス近年では、アニメーション会社などが多くなり、新たな西東京市の文化を作り上げていくような面もある。その中に文化財、文化的景観などを位置づけ、文化あるいは街作りそのものに積極的にアピールすることで、文化財の保護につなげていくのがよいのではないかと。

さらにいえば、こういった新たな創生には拠点が必要。本来は博物館だろうがすぐには難しいので、現在ある郷土資料室を拠点として活動しやすくする。イメージとしては知識を得る場所だけではなく様々な役割を持たせた郷土資料室を作っていけたら

よいと考える。

私見を述べるばかりになったが、見ていただきたかったのは、西東京市は地域ごとに大きな特徴があり、それぞれにコアにできる文化財や歴史が存在するということ。今後、先生方にもさまざまなご意見を頂き、いろいろな調査を通し、文化財の価値や活用方法などを確認しながら、西東京市にはどのような文化財保護の形がふさわしいのか、あるいは、文化財を用いてどういったことができるのかを、2年間かけて議論していただきたい。今回の資料は、そのために私見をまとめたものであるとお考えいただきたい。

○都築委員：

保谷囃子は、尉殿神社に奉納したものなので、上保谷域に入れるべき。
谷戸地域という表現は、田無を思い浮かべるため、適切ではないと思う。
東伏見稲荷神社は、本来保谷にあったのものではないので、入れるのはどうか。

○事務局：

ここに入れたのは、戦争関連という意味もあった。

○鈴木会長：

近代化遺産と考えれば、たとえば、明治神宮も指定されているので、含めてもよいのでは。また、社の裏にある屋敷稲荷は元々の村のものを集めている。近代遺産として、中島飛行機武蔵製作所などと一緒にするのもよい。

○都築委員：

氷川神社は？

○事務局：

失念しました。柳沢域に入れるべきものです。
これは、あくまでも私見ですので、今後先生方に議論していただきたい。

○鈴木会長：

このように、未来に向けてまとまりのある動きをしていかないと、なかなか文化遺産として活用されない。市民に還元していくという意味では、将来的な構想作っていないといけない。

○近辻委員：

この構想をたたき台にして、長期計画を作っていければよいだろう。

○石井委員：

関連して質問だが、郷土資料室の担当にはどのような人が配置されているのか。

○事務局：

嘱託職員がいる。

- 石井委員：
実習生を受け入れるのであれば、学芸員資格を持つ人間が必要では。
また、登録文化財制度は喫緊の課題。
さらに、旧下田家名主役宅の指定の種別変更も課題。
様々課題があるので次のステップに進むため整理をしてほしい。
- 鈴木会長：
出来れば、近々に進めていけそうなものと、長期の展望とをいくつか同時並行的に、進めると実現しやすいのではないか。
今後、西東京市の文化財をどう展開していくか議論をしていきたい。
ほかに質問は？
- 保坂委員：
資料にある保谷八景とはなにか。出典は？
- 近辻委員：
保谷八景と・日ノ出町のレポートは私が用意したので簡単に説明したい。
保谷八景とは、ほとんど知られていないが、東禅寺の前の住職である、中野良道さんが保谷市の文化財の市民担当の時に、地元で雑誌を作ったものの一つだと思われる。もとの文章に中野さんのコメントがつく構成。紹介文は中野さんが書いている。もとの文章と絵の作者は不明。地元の人らしいが、一切伝わっていない。ただ、内容を見ると、明治の終わり頃ではないか。作者を探してほしい。
日ノ出町の歴史文化基本構想について。文化庁がモデルケースとしていくつかの町を選び、作成させたものの一つ。23年3月に報告書が刊行されたので紹介する。今後の我々の議論に関連があるかと思い紹介した。
- 鈴木会長：
「歴史文化基本構想」は最近方々で出ているのでぜひ視野に入れておきたい。
そのほかで何か？
- 都築委員：
情報提供だが、練馬区石神井公園ふるさと文化館の企画展を準備中。11月27日～12月25日『武蔵野台地の縄文遺跡』と題し、下野谷も取り上げる。11月27日に講演会、12月4日にシンポジウムも行う。
石神井川流域では、環状集落は下野谷遺跡ぐらい、白子川流域には明確な環状集落はない。数少ない遺跡なので、練馬区側でも下野谷遺跡についてはPRしたい。
- 石井委員：
石神井公園には集落はないのか。
- 都築委員：
池淵遺跡があるが環状集落ではない。

○近辻委員：

練馬の石神井公園ふるさと文化館は補助金活用の好例と思う。

○都築委員：

まちづくり条例で建てたので、区の費用負担がない。プールとの複合施設で来館者も多く、すでに20万人に達成した。

(2) 次回会議日程について

次回の会議は12月9日（金曜日）午前10時予定。

○鈴木会長：

以上で本日の会議を終了する。